

私立 函館短期大学

取組名称 地方短期大学の資格取得支援計画による教育力の向上と就職支援

取組担当者 食物栄養学科 教授 上平 幸好

1. 本学の概要

函館短期大学は、1953(昭和28)年4月に函館市柏木町で開学した函館商科短期大学を前身としており、1962(昭和37)年に現在の名称に変更した。同年に栄養科を設置、商科との2科となったが、1965(昭和40)年に函館大学(商学部)を創立したことで商科を発展的に廃止し、短期大学は食物栄養学科のみとなった。2009(平成21)年に保育学科の設置が認可され、再び2学科体制となり今日に至っている。

現在は、函館市の東部に位置する高丘キャンパスに、食物栄養学科と保育学科を有する小規模な短大としてある。食物栄養学科は1963(昭和38)年4月に開設し、保育学科は開設されてまもない。計249名の学生が学んでいる。キャンパスは、北海道で唯一の文化財庭園として指定されている「旧岩船氏庭園(香雪園)」に隣接する専用住宅地にあり、教育環境としては市内でも特に優れた文京地区で、この丘には複数の教育機関が立地する。

本学では、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成することを主な目的としており、創立者故野又貞夫先生の掲げる建学の精神、学園訓3カ条「報恩感謝・常識涵養・実践躬行」を具体的信条として、知・情・意の円満にして高度に発達した人格を有し、人類社会に貢献しうる職業人の養成を教育理念とする。

2. 本取組の概要

本学は南北海道に位置し、基礎教育科目と専門教育科目を施すことにより、栄養士と保育士養成を使命とする地方の短期大学である。専門教科目に関連した教職課程の設置が認められて、中学校の家庭科、栄養、幼稚園の各教諭資格を付与できる。現在、「食と健康」「幼児教育と保育」に関連する外部の協会等と連携して、フードスペシャリスト・健康運動実践指導者・レ

クリエーションインストラクターなどの養成を行っており、また、函館市社会福祉協議会と共催して介護員の養成も行い、地域社会に有為な人材を供給している。

種々の資格を有する学生は、不況下にあっても重宝がられ、その就職内定率の高いことは過去の指導実績からして実証済みである。これまで本学独自で、先述の資格取得の奨励を学生の支援策として行ってきたが、昨今の著しい景気後退により家庭収入の減少をきたし、資格取得を目指す学生は経済的な余裕の無さから漸減傾向にある。

専門資格取得を目標とした学習の奨励は、結果として短期大学生の専門分野における学習の積極的な復習につながり、その意味で確かな教育力の向上に結びつくものである。このような理解と過去の実践結果に基づき、資格取得を希望する学生に、支援の対象種と支援枠の拡大を考えて、就職支援の一助となる総合学生支援計画を構築した。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

本学においては、教養豊かで人格円満な栄養士と保育士の養成を行っているが、そのために選択可能な多くの教科を開設する授業展開によって、「食と健康」・「幼児教育と保育」に関連する諸資格の付与を行っている。後述する新たな学生支援策の計画を考えるにあたり、その支援体制の充実を図るとともに、学習と就職に係わる総合学生支援計画の実施を通じて、本学学生の教育力を一段と高めようとするものである。

(2) 達成目標

本取組では、授業内容の理解を深め、応用力の高い学生の育成を目指して、入門的な教育指導の上に、基礎並びに専門教育を施し、その学習成果をして外部の関連する協会等が実施する各種専門試験を積極的に受験させて、その結果より学生個々人の力量を客観的に把握し指導する。

また、地域社会の求める人材を調査して、社会の要望に対処する教育内容の改善と教育力向上の達成を目標とする。

具体的な数値目標としては、過去の実績を勘案するならば、就職支援課に求職登録して本学からの支援を要請する学生のうち、2月末までに約80%は内定通知を手に行っているのであるが、これを3月末の卒業時までには95%へと、学生が満足のできる数値を支援目標としたい。「自己開拓」と戻込みする潜在的な就職希望学生を内定者へ意識改革させ行動する学生へと支援する。

専門分野における教育力の向上に関しては、本学が加盟している協会の認定実力試験への受験者数を増やし、7～8割の学生にAランク評価がなされるよう指導する。併せて、専門実務にも強い訓練の良く受けている卒業生として評価されるよう、本学の付設調理師専門学校との連携指導により目標を実現する。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

前述の目標を達成するために、従来、個々に支援してきた人材と方策を活用して、これまでの支援方法のあり方の長所・短所を適切に把握することにより、新たな総合学生支援組織の構築は可能となる。また、就職相談体制の強化、企業との交流促進による求人確保、ビジネスマナー講座の開設、卒業生や保護者を交えた就職準備講座等を実施し、協会の主催する実力試験の受験奨励を通じて、専門領域の学習の積極的な復習を促すことにより、学生の教育力と就職支援の一層の向上を図る。

表1 学生支援の内容

- | |
|---|
| <p>1. 学科関連の各種資格取得のための講座開設
 栄養士、保育士、栄養教諭免許・幼稚園教諭免許、
 中学校の家庭科教諭免許、調理師、製菓衛生師受験資格、
 フードスペシャリスト、介護員、健康運動実践指導者、
 エアロビック・ダンス・エクササイズ・インストラクター、
 レクリエーション・インストラクター、MOS検定（ワード、
 エクセル）</p> <p>2. 各協会主催による実力試験等の準備支援</p> <p>3. 就職支援相談体制の強化、キャリア支援コーナーの設置</p> <p>4. ビジネスマナー講座開設、企業との交流企画</p> |
|---|

(2) 取組の実施体制

学長を中心とした学生支援プロジェクトは既に策定されており、この資格取得支援計画に本取組の対象を拡大することで、急激な経済的不況にも対処のできる学生支援体制の改革を進める。さらに実務的な教育指

導に携わる外部からの新たな人材の確保を積極的に行うことで、学生が期待する多様な専門資格取得の支援は、より確かな組織になるものと考えられる。

食物栄養学科の場合、4コース別に取得可能な資格を案内する。なお、このコースとは、新しい栄養士像を明確なビジョンとして示したもので、栄養学を基礎に多様な職業選択に直結するカリキュラムが用意され、また検討がなされるものである。



写真1 調理師資格取得のための実習

調理栄養コースではフードスペシャリスト資格を、さらに本学付設の調理師専門学校との連携により、夜間部で調理師または製菓衛生師受験資格の取得を奨励する。スポーツ栄養コースでは健康運動実践指導者資格とADI（エアロビック・ダンス・エクササイズ・インストラクター）資格、さらにレクリエーション・インストラクター資格の取得を促す。教職栄養コースでは教職課程が認可されているので、中学校家庭科の免許と栄養教諭免許の取得を奨励する。福祉栄養コースでは介護員2級資格の取得を目指すものである。さらに本学科では、学力向上の視点から栄養士養成施設協会が主催する協会認定実力栄養士の資格試験を受験指導することで、学生個々人の専門分野別の理解度を客観的に把握させたい。

保育学科では、保育士養成を基本に、今後進められ



写真2 健康運動実践指導者資格取得のための授業

る幼保一元化を念頭に、学生全員に幼稚園教諭免許の取得を奨励する他、子どもとの遊びのなかでの教育を考え、レクリエーション・インストラクター資格取得や、食育教育との関連において製菓衛生師受験資格の取得を奨励するものである。

さらに、2学科共通の資格取得の奨励として、基礎教育科目の中に情報教育に関する科目を複数設定しているため、これを基礎にマイクロソフト社のMOS検定受験を目指し、ワードとエクセルの特別指導を外部より迎えた講師陣の力を借りて実施する。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制

本取組では、資格取得支援計画の効果を検証するための担当チームの立上げを図り、関連する各種委員会の定期的な開催を図るなどして、計画の進捗状況や有効性についての検討を行う。また、より望ましい具体的な方策等を併せて検討するなどして、学生にとって満足度の高い専門実務教育の実現を図り、さらに就職者数及び内定率の実質的な向上の達成を目指す。

次に、広く学生の社会適応能力を涵養することを目的とした支援体制を構築する一環として、キャリア支援コーナーを設置するとともに、自己点検・評価委員会が実施している評価方法や点検項目を活用して、本学が過去に独自に行ってきた結果との照合を行う。また、同委員会の評価機能を厳正に発揮させる権能を保障することで、当事者の自己満足に陥らぬ取組の評価体制を構築する。

(2) 取組の評価方法

本計画については、従来、本学が独自に実施してきた指導実績があるので、それら実績の平均値を基準として、新たに取り組む総合支援計画によりもたらされる成果との比較と点検を行う。これにより新行動計画に基づく各種試験の合格者数や合格率についての比較は可能である。

6. 本取組の実施計画等

(1) 実施計画

具体的には、本学が以前より取り組んできた栄養士と保育士の養成に加えて、「函館短期大学行動計画」を策定し、教職員の協力の下に各役割分担を依頼し、学内の各種委員会並びに各プロジェクトチームへ所属

させて、諸資格を取得希望する学生へ指導を行い、またチーム等の運営責任を担わせる。

実際に担当する委員会は、就職支援委員会を始めとして教務委員会、フィットネスセンター運営委員会で、チームは教職資格取得支援プロジェクトチーム・情報教育プロジェクトチーム・管理栄養士養成プロジェクトチームの3つである。



写真3 MOS資格取得のための講習

(2) 財政支援期間終了後の展開

学生支援のあり方の検討や、自己点検・評価規定に基づく二巡目の第三者評価が2012(平成24)年度に予定されているため、財政支援期間の終了後も、学長は本学の存立にかかわる重要な施策として本計画を位置づけしている。また、実績もあることから、学園理事会は成果の期待される取組として、これまでも承認してきた経緯がある。従って、本計画は今後とも継続的な展開の見込まれる取組としてある。

(3) 成果などに関する情報の提供

本取組に関わる一連の情報提供については、本学が文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業(テーマB)」に採択された旨、電子媒体を用いた充実したホームページを始め、学校案内の冊子においても紹介し、本学の教育力の向上と就職支援への、指導の実際を広く知らしめる。

表2 函館短期大学資格取得支援の行動計画一覧（役割分担表）

学校名	函館短期大学		年度	平成21年度	
課題の概要	<p>1. 社会に貢献できる専門性の育成：開学以来掲げる職業教育理念に基づき、実務科目の履修を奨め、その一層の具現化のためにマルチライセンスを持つ学生の育成に努めることを教育目標の一つとして実行する。</p> <p>食物栄養学科ではその特性を生かし、調理栄養・スポーツ栄養・教職栄養・福祉栄養の4コースの内容を発展させて、「食と健康」に関する各種資格取得の指導を行ってきた。有益なので引き続き発展させ継続する。問題点等の検討は、各委員会ないし各プロジェクトチームが行い、学科会議及び教授会の承認のもとに改善を図る。</p> <p>保育学科においては、開設初年度となるため、その基礎固めとして保育士と幼稚園教諭資格を確実に修得できるよう、遺漏のないよう履修の点検を各教養セミナーで行い、その上で他の関連資格を紹介して実績をつくる。問題点等の検討は学科会議で行い、教授会の承認の基に改善を図る。</p>				
	行動計画Ⅰ：3月末までに、担当責任者と委員等の委嘱を行う。	行動計画Ⅱ：4月上旬、学生へのオリエンテーションを行う。	行動計画Ⅲ：9月末、学生の履修状況の中間把握を行う。	行動計画Ⅳ：2月末、資格付与に係る認定の作業と監督官庁への報告。	
1. 学長	年度毎に、過去の実績を踏まえて、実施する資格付与に係る担当者の委嘱を年度末の3月までにを行う。	各資格案内の確認と受講者の把握を行う。	各学科の責任者に実績等を報告させるとともに、今後の計画の確認を行う。	年度の最終実績の確認と、次年度の計画案の点検と指示を行う。	
2. 学科長	学科の教育目標を理解し、完成年度までに課題の結果をだすよう努力する。	オリエンテーションにおける各資格案内の確認を行う。(受講人数の予定)	各担当者に実績等を報告させるとともに、今後の計画の確認を行う。	年度の最終実績の確認と、次年度の計画案の作成を行う。	
3. 事務局長	学長の委嘱案について、参考意見を述べ、確かなものとするよう補佐する。	学長不在の時、各資格案内と受講者数を把握する。	同上	同上	
4. 教務委員会 委員長は畑井、食物栄養学科の委員は猪上・村田・沼田・会田・保坂・坂手の各教員と教務課長。 保育科は佐々木・志賀・原子・新沼・植木・畑の各教員。	調理栄養系の資格については、主に教務委員会の所管として、畑井委員長を中心に活動する。	見込み者数 栄養士 (112名) 協会認定実力栄養士 (25名) フードスペシャリスト (40名) 調理師 (50名) 製菓衛生師受験資格 (20名)	実際の履修者数の把握 栄養士 (100名) 協会認定実力栄養士 (40名) フードスペシャリスト (82名) 調理師 (41名) 製菓衛生師受験資格 (14名)	これらの資格は、カリキュラムに従って実施されるため、出欠席の把握が重要であり、教務委員会より教授会に報告することになる。指導結果の確認と次年度に向けての点検を行う。	
	保育系の資格についても、教務委員会の所管とするが、学科長を中心に委嘱された教員とSL担当教員が、学生の履修状況の点検を確実にし、卒業時にトラブルのないよう関係法規と照合しておく。	見込み者数 保育士 (31名) 資格は、カリキュラムに沿って実施され取得となるため、出欠席の把握が重要であり、教務委員会より教授会に報告することになる。	実際の履修者数の把握 保育士 (31名)	指導結果の確認と次年度に向けての点検を行う。	
5. フィットネスセンター運営委員会。 センター長の坂手教員が中心となる。	スポーツ栄養系の資格については、同センター長の坂手専任講師を中心に、原崎研究員と非常勤講師の協力のもと実現する。	見込み者数 ADI (15名) 健康運動実践指導者 (25名) レクリエーションインストラクター (40名)	実際の履修者数の把握 ADI (7名) 健康運動実践指導者 (16名) レクリエーションインストラクター (11名)	指導結果の確認と次年度に向けての点検を行う。	
	保育学科においては、松田専任講師が同運営委員会に所属して協力することになる。	見込み者数 レクリエーションインストラクター (一名)			
6. 就職支援委員会。介護員養成は、佐々木貴・新沼・畑委員と林原課長補佐を中心に行う。	福祉栄養系の資格については、函館市社会福祉協議会の共催で実現する。保育系で希望者があれば参加を認める。	見込み者数 介護員2級 (40名)	実際の履修者数の把握 介護員2級 (37名)	1月上旬に始め、土日を利用し130時間研修後、3月上旬に認定される。指導結果の確認と次年度に向けての点検を行う。	
7. 教職資格取得支援プロジェクトチーム。 教職科目担当教員による支援：鈴木、佐々木、畑井、保坂教員が中心となり運営。	教職栄養系の資格については、鈴木・畑井両教授と保坂専任講師が協力、指導する。	見込み者数 栄養教諭2種 (30名) 家庭科教諭2種 (10名)	実際の履修者数の把握 栄養教諭2種 (28名) 家庭科教諭2種 (12名)	教育実習や介護体験等の実習を経て、3月上旬に申請し、卒業時に免許が与えられる。 指導結果の確認と次年度に向けての点検を行う。	
	保育学科においては、原子准教授と谷村・小岩専任講師が協力。	見込み者数 幼稚園教諭2種 (31名)	実際の履修者数の把握 幼稚園教諭2種 (31名)	教育実習や介護体験等の実習を経て、3月上旬に申請し、卒業時に免許が与えられる。 指導結果の確認と次年度に向けての点検を行う。	
8. 情報教育プロジェクトチーム。 林原課長補佐を中心とし、非常勤講師の指導で進める。	情報系の資格付与については石川事務員を窓口として非常勤講師の協力を持って実施する。	マイクロソフト社のM.O.S検定 実施での見込み者数 ワード (2003) (40名) エクセル (2003) (40名)	実際の履修者数の把握 ワード (2003) (41名) エクセル (2003) (47名)	夏季と冬季に、それぞれ特別講習を行い、試験官立会いのもと力量が図られる。 指導結果の確認と次年度に向けての点検を行う。	
	保育学科においても同様に石川事務員、非常勤講師の協力を持って実施する。	マイクロソフト社のM.O.S検定 実施での見込み者数 ワード (2003) (一名) エクセル (2003) (一名)	実際の履修者数の把握 保育学科の学生は、次年度に受験希望者が見込まれる。		
9. 管理栄養士養成プロジェクトチーム。 卒業生を中心に実務経験者の受験支援。	卒業生を中心に、実務経験者に対する受験支援。本学教授陣と非常勤講師の指導により、講義と出題傾向の分析並びに模試を行い、本番に備える。	管理栄養士国家試験 受験講座の開設 見込み受講者 (10名)	実際の履修者数の把握 管理栄養士国家試験受験講座 (10名)	例年5月頃に合格発表。 指導結果の確認と次年度に向けての点検を行う。	